

流域治水プロジェクト2.0について

令和5年8月4日

中国地方整備局 太田川河川事務所

流域治水プロジェクトについて

- 全国の1級水系において、河川対策、流域対策、ソフト対策からなる流域治水の全体像をとりまとめ、国民にわかりやすく提示する。
- 戦後最大洪水に対応する国管理河川の対策の必要性・効果・実施内容等をベースに、**早急**に実施すべき流域治水プロジェクトを令和2年度中に策定する。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

集水域

雨水貯留機能の拡大
 県・市、企業、住民
 雨水貯留浸透施設の整備、ため池等の治水利用

流水の貯留
 国・県・市・利水者
 治水 建設 再生
 利水 等 貯留水
 事前 放流 洪水調節 活用

河川区域

国・県・市
 土地利用 一体 遊水
 機能 向上

持続可能な河道の流下能力の維持・向上
 国・県・市
 河床掘削 引堤 砂防堰堤
 雨水排水施設等 整備

氾濫水を減らす
 国・県
 粘 強 堤防 目指
 堤防強化等

被害対象を減少させるための対策

リスクの低いエリアへ誘導／住まい方の工夫
 国・市、企業、住民
 土地利用規制、誘導、移転促進、不動産取引時の水害リスク情報提供、金融による誘導の検討

氾濫域

浸水範囲を減らす
 国・県・市
 二線堤の整備、自然堤防の保全



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土地のリスク情報の充実
 国・県
 水害リスク情報の空白地帯解消、多段型水害リスク情報を発信

避難体制を強化する
 国・県・市
 長期予測の技術開発、リアルタイム浸水・決壊把握

経済被害の最小化
 企業、住民
 工場や建築物の浸水対策、の策定

住まい方の工夫
 企業、住民
 不動産取引時の水害リスク情報提供、金融商品を通じた浸水対策の促進

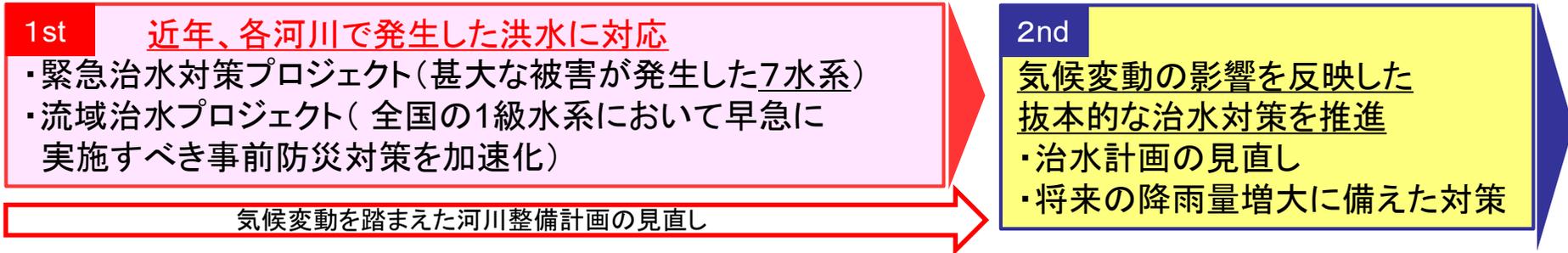
被災自治体の支援体制充実
 国・企業
 官民連携による の体制強化

氾濫水を早く排除する
 国・県・市等
 排水門等の整備、排水強化

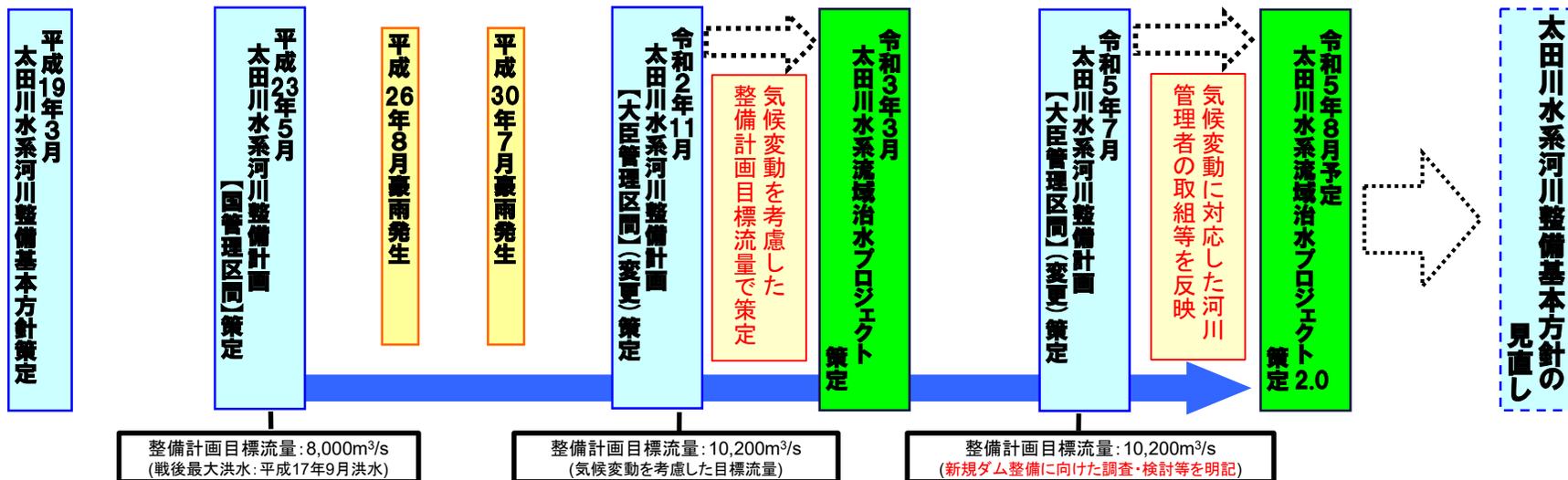
「流域治水プロジェクト2.0」への深化について

- 令和5年度以降、**気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方向性を『流域治水プロジェクト2.0(以降、「流プロ2.0」という。)**』として、全国109水系で順次更新し、流域関係者で共有する。
- 太田川水系では、中国管内のリーディング水系として、流プロ2.0を**令和5年8月中に策定する。**
- 令和3年3月に策定した太田川水系流域治水プロジェクトは、**既に気候変動を考慮した整備計画目標流量で策定しており、今回の流プロ2.0では、新規ダムに向けた調査・検討等、主として気候変動に対応した河川管理者の取組等**を反映させる。

(今後の水害対策の進め方)



(太田川水系河川整備計画の変更経緯と流域治水プロジェクトの策定)



【参考】太田川水系河川整備計画(変更)の目標設定

○令和2年11月に変更した太田川水系河川整備計画において、太田川の資産状況及び気候変動による降雨量の増大等を考慮し、下流デルタ域及び下流部における整備計画目標流量は、基準地点玖村において10,200m³/sとしている。

○太田川下流デルタ域及び下流部

【変更前の河川整備計画】

変更前の河川整備計画目標:平成17年9月洪水実績相当
ダム無し流量:8,000m³/s(1/70相当)

太田川の資産状況及び気候変動
による降雨量の増大を考慮

目標規模が気候変動により
1.1倍となってもカバー可能

【現行河川整備計画】

現行河川整備計画目標:1/100程度
ダム無し流量:10,200m³/s

<参考:平成17年9月洪水の
2日雨量を1.1倍に引伸ばし>
ダム無し流量 : 9,700m³/s

